

Q

応力腐食割れ(SCC)を起点として疲労き裂が進展する事象はありますか。

参照 QNo.: FC-06

A

き裂進展の条件(環境と応力)を満足している場合には、両者は区別できない事象である。  
 応力腐食割れ(SCC)が発生し、SCCの下限界応力拡大係数  $K_{ISCC}$  以上の応力拡大係数  $K$  で進展する場合、応力変動があれば SCC が加速される(動的 SCC)。これを疲労き裂の側から見れば、疲労き裂が発生し、疲労の下限界応力拡大係数範囲  $\Delta K_{th}$  以上の応力拡大係数範囲  $\Delta K$  で進展する場合、最大応力拡大係数  $K_{max}$  が  $K_{ISCC}$  以上になれば、疲労き裂進展が加速されるということになる。これを疲労き裂進展と SCC の重畳効果という。一般的には、さらに腐食による疲労き裂進展の加速という事象がある(腐食疲労)。これらをまとめて図1に示す<sup>(1)</sup>。図1の(d)が、上記の疲労き裂進展と SCC の重畳効果である。

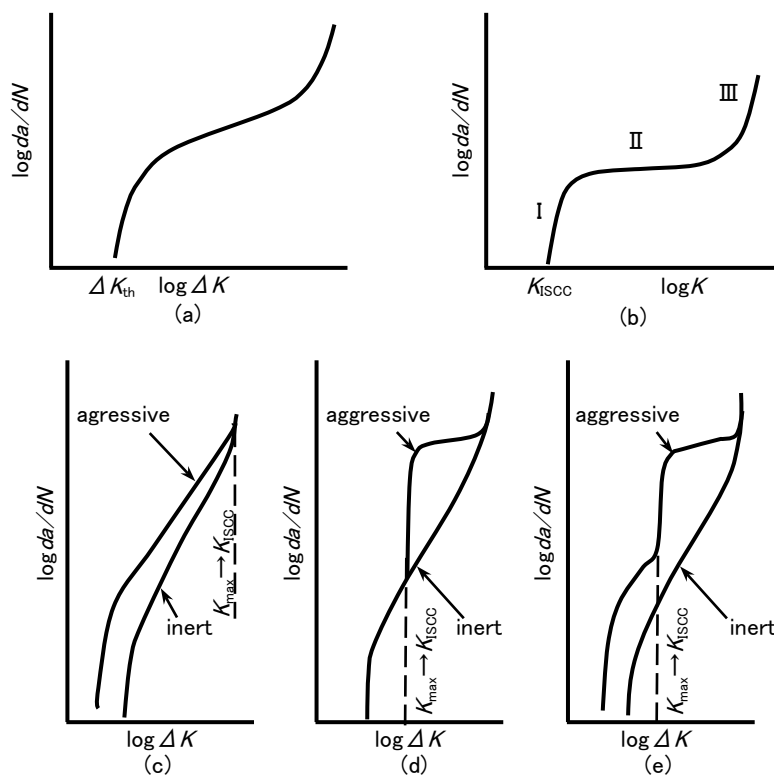


図1 疲労き裂進展と環境助長き裂進展の組合せ<sup>(1)</sup>

- (a) 疲労き裂進展(繰返し荷重, 不活性環境)。
- (b) SCC(一定荷重, 活性環境)。
- (c) 腐食疲労き裂進展(繰返し荷重, 活性環境)。
- (d) 疲労き裂進展(a)と SCC(b)の重畳効果。
- (e) (c)と(d)の組合せ。

[参考文献]

- (1) McEvily, A. J., and Wei, R. P., 'Fracture mechanics and corrosion fatigue', Int. Corros. Fatigue Conf., pp.381-395,(1972),.